

# 仙台教区報

発行所カトリック仙台司教区事務所  
 980 仙台市本町一丁目2番12号  
 電話〇二二二一七三七七番  
 編集・発行人 首藤 正義

## 「カテドラル再建」への始動!!

### 信徒一人ひとりの理解と積極的参加が土台……

前号で、司教総代理齋藤石雄師から、「仙台教区のみなさまへ」と題して「カテドラル再建」に関する協力の訴えがなされた。

引き続き9月25日付で再び総代理から、カテドラル再建に関する今までの資料を添えられて「カテドラル再建について」の文書が各教会、各修道会宛に送付され、具体的な意見を問うことになった。

### 教区民全員の課題



カテドラル再建は教区民全員の課題である。信徒一人ひとりが再建計画を自分のものとして理解し、計画のはじめから全員の協力によって進められるべきものである。そしてカテドラルは信徒の要望に応え得るものとならなければならぬ。従って信徒のアイディアがこの計画を大きく左右することになる。

### 総合的整備開発

再建にあたって大切なことは、カテドラルの果たす役割を考慮し、仙台教区の中核にふ

さわしい機能と環境作りをはじめ、総合的観点から推し進められなければならない。即ちカテドラル、教区事務所、司教館、元寺小路教会を含めて、今後の教区、小教区活動に十分対応できる機能を備えたもの。つまり仙台教区における将来の布教ならびに仙台市内における布教の両面から考えることが重要。

### 地の利を得た現在地

元寺小路のこの地は仙台市の中心に位置し、仙台駅に近いこと、従って仙台市内はもちろんのこと、郡部や他県からも交通の便がよく、宣教司牧にとつてこの上なく地の利を占めている。都市計画によつて今後ますます地の利を得ることが確実とされている。

### 風雪に耐え抜いた32年



現在の建物は昭和27年、木骨モルタルで建てられ、昭和53年の宮城県沖地震にも耐えたものである。すでに耐用年数を越え、修理を重ねて使用してはいるが、あと10年程で危

険建造物と化する恐れがある。

### 信徒一人ひとりの協力

再建計画実現の大きなカギとなるのは、なんといつても建設資金の調達にある。地元の元寺小路教会では、昭和57年11月から募金活動を始め、個々人の寄付、バザー、廃品回収等の地道な行動をおこしている。今後は教区民一人ひとりの協力による建設資金調達の活動が期待される。



### 司教日程(10月13日現在)

- 11月3日 十和田教会百年祭
- 5日 教区司祭団役員会(仙台)
- 6/7日 カリタス・ジャパン教区担当司祭会議(東京)
- 9日 カリタス・ジャパン難民施設長会議(東京)
- 12日 司祭評議会(仙台)
- 13日 常任司教委員会(東京)
- 14日 社会福祉法人理事会(仙台)
- 15日 カリタス・ジャパン事務局(東京)
- 18日 気仙沼教会堅信
- 20日 社会司教委員会(東京)
- 21日 マザー・テレサ講演会(仙台)
- 23日 久慈教会記念日・教会奉仕者任範式
- 24日 宮宗連報編集会議(仙台)
- 25日 聖ウルスラ修道会創立四五〇年記念(仙台)
- 26日 教区司祭団月例会(仙台)
- 28日 人権福祉委員会(東京)
- 29日 カリタス・ジャパン事務局(東京)
- 29/30日 神学校常任委員会(東京)
- 12月3日 教区司祭団役員会(仙台)



家庭と信仰に関するアンケート調査  
近々に実施 (教区大会企画委員会)

教区大会企画委員会は10月14、15日、仙台、光ヶ丘研修所で第三回会合を開き、今回は次のような事柄を決定して、2年後の大会に向けての各教会および教区全体としての活動に一層の注みをつけることにした。

(1) 教区全体の中学生以上の信者を対象とするアンケート調査を行なう。教区大会のテーマは『明日の教会を目指して』教会の未来は家庭にかかっている。であるが、このアンケートは、いろいろな形(家族全員が信者であるとか、家族のうちで一人だけ信者とか)の家庭それぞれの中で、信者一人一人が自分の立場をどのように自覚しているかその現状を見ようというもの。アンケート用紙は11月初旬までには全教会に配られ、できる

喜ぶ5教会

三陸鉄道開通



去る10月17日、大船渡、釜石、宮古、遠野、久慈の5教会は、三陸鉄道開通祝賀親睦会を宮古教会で開いた。

鉄道開通によって岩手県内の近い教会が交通の面でぐっと近くなり、沿岸教会の今後の結びつきの第一歩が始まったことになる。なお、当日は11時から共同ミサが捧げられ、祝賀会食がなされた。

だけ多くの信者に回答のご協力を願う。回収は各教会でまとめて、期限を12月15日として司教区事務所あてに返送していただく。12月中にその分析にとりかかるとは、アンケートはその後も重ねて行なう予定。

(2) 教区大会当日の時間枠は、一日目は午後1時から6時まで、二日目は午前9時から正午までとする。その中の主たる催しとして、ミサ、講演、各地区の発表を行なう。

(3) 大会実行委員会の組織を、総務、財務、実施、設営、宿舎、広報の六部に考える。企画委員会は各部署の基本内容を定め、仙塩地区の教会に一部局を一教会で担当してもらって、考えられる限りの具体的な仕事や手順などのプランを練って提出していただく。また財務に関し、参加費用を、原則としてプール制とする。なお参加人数の目標は宮城六百人、三県から各三百人、計千五百人を考える。

第5回神学講座  
佐藤千敬司教様を迎えて

主催・神学講座実行委員会

9月23日(日)、午後2時〜4時まで、元寺小路教会信徒館において、今年はおひさまとの佐藤千敬司教様を迎えて、主題「今日、日本において、キリストの弟子となること」わたしたちの福音宣教」(この主題は、特に教区司牧年間目標「社会にキリストの平和を」を意識したもの)について講義していただいた。受講者は約40名であった。

司牧評議会報告

9月24日・於 元寺小路教会

第15回司牧評議会(9月24日、元寺小路教会信徒館)の報告は各教会・修道院に届けられているが、その主内容は概ね次のとおり。

1. 職務上「教会会計」も司牧評に加わることが決定。議案審議にあたり、教区財政を把握している者が欠けては不都合であるから。

2. 教区大会に向けての活動推進。「2年後の大会開催」がどの程度浸透しているか、活動が起こっているか、および大会企画委への要望が各地区から報告された。大会に向けての活動の原点は7月10日付「企画委広報」による「家庭のあるべき姿」についての各教会での話し合いであるが、この話し合いを積み重ねることが強く望まれた。

2. カテドラル再建設に関して。この件の現在の責任者は司教総代理・斎藤師であるが、教区民全員の協力を得てとりかかるとともに、今までの経過や資料をまとめたものを添付して趣旨を周知させ、幅広く意見・発案を求めて進めていく考えである。ご理解とご協力を是非お願いする。

デュメン師、黒石教会へ

休暇でカナダにお帰りだったケベック会のデュメン神父様は、9月下旬、お元気で青森に帰られ、10月から黒石教会主任に着任された。黒石教会には今まで、ラベ管区長様が、主任として青森市から毎週通っておられた。

社会問題を考える

Ⅰ 国内体験学習

原子力発電に関する諸問題



日本列島が猛暑に襲われた7月末から8月初めにかけて、TFAが主催した社会問題を体験的に学ぼうとする全国国内体験学習東北地区研修が郡山で行われました。TFAとは、日本女子修道会総長管区会長アジア活動推進機関であつて、今までもフィリピンなどの海外体験学習や国内体験学習が同機関の企画で行われてきましたが、今年の国内体験学習は地方別に計画された点で新しい試みでした。対象は、主として日本女子修道会会員ですが、一般信徒の方々の協力なしには成果をあげることは不可能であり、東北地区もその点で大いに恵まれました。

さて、東北地区のテーマは、「原子力発電に関する諸問題」で、7月31日から8月2日まで郡山カトリック教会信徒会館を根城として行われました。参加者は、TFA本部からのファシリテーターとして、メリノール会のSrジーン・フアロン、メルセス会のSr伊従、Sr日下部を中心に、東京から女子パウロ会5名、沖繩の汚れなきマリアのみ心のフランシスコ会から、はるばるおいで下さった2名のシスター、及び、地元4名(この中に郡山教会の大川原有重氏ら2名が含まれます)の協力者達でした。

体験学習第一日は、午後3時開会。埼玉大大学教授市川定夫氏を講師に、「原子力はなぜ危

険か」と題してお話を伺い、夜は氏を囲んで

「福島原発をどう考える」座談会が行われました。

第二日、午前8時30分、大川原氏の案内でマイクロバスに乗り、福島第一原子力発電所に向け出発しました。途中、三春町歴史民族資料館見学、正午近く双葉郡大熊町にある福島県原子力センターに到着。ここでは主として原子力開発の将来的展望や、安全性などについての説明を聞き、続いて東京電力福島原発サービスホール見学、展望台からはるかに第一原発全施設を眺めました。

午後、私たちは、南棚塩地区原発反対同盟委員長舩倉隆さん宅を訪れ、原子力発電による環境汚染や、被爆に関する現地の人々の声を聞きました。同同盟は、東北電力が新たに計画している浪江・小高原発計画に対する用地不売を主とする同盟です。

第三日、郡山カトリック教会信徒会館で、「原子力発電と私たち」のスライド上映。

「福島県における倒産失業状況」報告者。

大川原有重氏。「郡山とアジアを考える」

(在日出稼ぎフィリピン女性の問題)

報告者||郡山教会・相沢氏、Sr伊従「アジアの軍事化を考える」

(トマホーク配備を中心に)

等のテーマで報告や意見交換、分かち合い、を行い、共に祈り、明日からの歩みを考えました。参加者一同は、郡山教会主任司祭及び信徒の方々、無原罪聖母会の御理解、御協力により、実り豊かな学習ができましたことを感謝しつつ、午後4時30分散会しました。

なお、この時期に、広島、九州(水俣市)関西(釜ヶ崎、京都)、関東(川崎、横浜)においても、原爆、水俣病問題、日雇労働者などの諸問題をテーマに体験学習が行われました。(聖ウルスラ修道会 竹内和子)

仙台市に「非核都市宣言」をめざす

「平和の折り鶴一万羽」運動



去る8月、カトリック正義と平和仙台協議会の平賀徹夫師と核兵器廃絶と平和を願うキリスト者の会の森野善右衛門氏の二人が呼びかけ人となり、「平和の折り鶴一万羽」運動が展開された。

エキキュメニカルな広がりの中で幅広い市民の賛同と協力が得られ、目標をはるかに超える3万6千111羽の折り鶴が集まった。

9月13日に代表約30名が37房にまとめられた折り鶴の房をもって仙台市役所を訪ね、伊藤倉蔵市会議長と島野武市長に面会し、「この市民の願いに応じて、一日も早く仙台市に非核都市宣言を」と要請した。

集められた折り鶴の内訳は以下の通り。

プロテスタント 6,498  
カトリック 1,180

立正佼正会 3,900

日本山妙法寺 200

仙台MPD 1,433

なお、この案件を審議している市議会の総務財政委員会では、9月の議会ではその採択が見送られた。次の12月議会での動向が見守られている。

★仙台で始めました……  
アフリカ難民救援

……：教区全体の運動となることを願って★  
……：3人が1人が飢え、毎日100人以上のひと  
ちが飢えて死んでいっているアフリカ大陸  
飢餓難民は500万人といわれている。毎日、マ  
スキミの報道によつて、その飢餓状況が目  
のあたりにされている。

この現状に直面し、カリタス・ジャパン担  
当司教である当仙台教区長・佐藤千敬司教の  
おひざもとである仙台市において、「飢えの  
アフリカの友を救おう!!」と街頭募金活動が  
行なわれている。

この募金活動を主催するのは「アフリカ  
難民救援特別キャンペーンチーム」をくんだ、

韓国、という言葉聞いた時、私は日帝36  
年の時代のこと、在日韓国人の日本での位  
置、をすぐ思い出してしまふ。訪韓前、そ  
のことしか頭になかった。韓国ではさぞかし  
冷たい視線に出会ふだ  
ろうと覚悟していた。

しかし、行つた先々  
で暖かく迎えられる、行  
く前の思いは単なる危惧であつたように思  
われた。

だが常緑村という小さな村で一人の人に  
出会つた。彼は口を閉ざし、笑顔ひとつ見  
せようとしなかつた。そして、「日本人は私

カトリック正義と平和仙台協議会(猪岡近男  
会長)と聖ビンセンシオ・ア・パウロ仙台協  
議会(早坂養吉会長)、絵本の会(大戸恵子  
会長)の3団体であるが、この活動は仙塩地  
区8カトリック教会として仙台市民に協力を  
よびかけている。

街頭募金には仙塩地区8教会の信徒・修道  
者・司祭を総動員したいものとキャンペーン  
チームは願ひながら、募金は9月30日から10  
月28日までの各日曜日(5回)、午後1時か  
ら3時までの2時間、駅前など仙台市の繁華  
街5カ所で行なわれている。すでにこのこと  
は地元紙の『河北新報』にアピール記事とし  
てとりあげられ、関係者は意を強くしている。

この街頭募金にさきだつて、仙塩地区の教  
会や修道院、施設、カトリック幼稚園、学校  
たちを朝鮮人と言つて馬鹿にしていじめた。  
日本が上で私たちは下だ」と語つた。この一  
言で私は訪韓前の自分にひきもどされた。  
その時、そばに居たシモンという青年が、



「私たちはキリスト者  
として同じ神の子、兄  
弟なんだ」とゼスチャ  
ーを交じえて熱心にそ  
の人に説き話した。

「兄弟」、この言葉によつて韓国と自分  
を隔てていた距離が縮められ、「ほんとう  
に兄弟なんだなあ……」という思いをさせ  
られた。  
(平間孝治・元寺小路)

においても募金活動が始められている。  
これらの寄せられる献金は「カリタス・ジ  
ャパン」を通して、エリトリア、エチオピア、  
スーダン、ウガンダ、モザンビークの干ばつ  
難民に食糧として送られる。マスキミ報道に  
よつて知られるように、アフリカ大陸の飢餓  
の状況は私たちの想像をこえたものがあるだ  
けに、関係者一同はこの活動がとび火して、  
教区の、そして日本のカトリック教会全体の  
動きとなつていくことを切望している。

マザー・テレサが



仙台に来ます！  
あのマザー・テレサが初めて仙台に来られ、  
仙台司教区主催で講演会が開かれる。期日は  
11月21日(水)。このほどようやく講演会場  
が確定したので、当日の詳しい日程も追つて  
決定・発表できる運びとなつた。当日に関す  
る概要は次のとおり。

- 11月21日の主たる催しは、佐藤司教司式に  
よるミサと、マザー・テレサの講演。
- 講演会場・仙台市体育館(今年4月にオー  
ブンしたばかり)仙台市富沢一丁目)
- 入場無料・ただしマザーの活動援助のため  
の献金を当日お願いする。なお入場整理  
券を発行、後日各教会に配送し、入場予  
定者数を見るために消化枚数の報告をお  
願ひする。(献金は全額マザーに贈るの  
で、講演会運営の資金のための寄付を受  
付中です)宛先・司教区事務所)
- 詳しい事の問い合わせは司教区事務所迄。

私たちの「敬老の日」

野田町教会 木戸 清吉



9月15日敬老の日をはさんで、市や町会主催の敬老会が各地区で行なわれるが、当教会でも9月30日敬老のお祝いもたれた。

70歳以上で招待される方は28名いるが、この日参加されたのは13人である。教会でこのお祝いが始まって5年になるが、3年目からごミサの時に病者の秘跡が授けられるようになった。最初は病者の秘跡を文字通りに受け取って、病人でもないのに何のための秘跡かと疑問もあつたようだが、今では理解され、感謝と喜びをもつて頂いている。老齡化がす

仙塩地区

カトリック教会合同運動会



恒例の仙塩地区カトリック教会合同運動会は9月16日(日)、ラ・サールホームのグラウンドで、450名参加して行なわれた。

午前9時、深沢師・土井師・クルノイエ師・ジョリコル師・首藤師の共同司式で野外ミサ。今年にはミサの参列者も多く(350名)、東仙台教会のボーイおよびガールスカウト、それからオルガンの側で元気に歌っていたラ・サール・ホームの子どもたちが目をひいた。

10時、開会式、今年初めて行なつた教会ごとの入場行進は小さなオリンピックみたので、仙塩地区カトリック教会に輝く信仰の燈をしかと感じた。

すみ、敬老の日が形式化され、その時だけのさわぎに終るときがくるかも知れないが、教会で秘跡を頂いて祝される敬老の日は、真実の敬老となくさめが得られ、喜びの日となるにちがいない。

ごミサが終つて、婦人会が心をこめてつくつた赤飯やかずかずの料理を頂き、すぎ去りし日の思い出話に花が咲き、唄もでてきて、老いてもなお元氣一杯、和氣あいあいのひとときをすごした。

ただ残念に思うのは、招待者と接待役の婦人会だけで、中・高年、青年姉妹がいないうことである。教会全員が集まつてのお祝いでは、にぎやかすぎでうるさくなるからだろうか。

10時30分、競技開始、プログラムは大体例年と同じなので、まごつくこともなくスムーズに進行了。メインイベントは教会対抗の年齢別選手によるリレーで、この種目で優勝が決定するにあつて、各教会とも精銳をよりすくつて、一人一周130メートルのコースを全力疾走した。

昼食時には東仙台教会婦人会が準備した豚汁やあけの星会の弁当も全部売れ、各教会それぞれに秋空の下、ひとかたまりになつて食を共にしながら、「赦し互いに愛しあう」という今日の福音の教えを学んだ。食事あとのフォークダンスや仙台七夕おどりもほほえましいひとときだった。

心配された雨も降らず、予定通り午後2時30分終了、閉会式。優勝は塩釜教会、二位一東仙台教会、三位一八木山教会であつた。(下山記)

春秋



文部省唱歌に虫の声という題の歌があります。あれ鈴虫もなきでした。リンリンリンリンリンリンリンリン

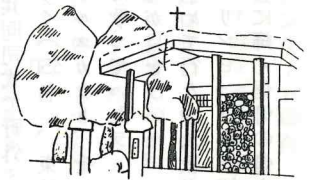
鈴虫を飼つてみて、この唱歌を思い出しました。鈴虫を近くから見て、はじめてわかりましたが、ひげが白いのです。それに頭と尻にあるのです。頭の方のものだけは先が黒いんですね。鳴くといつても羽を摺り合わせているので、やがて摺りへるのでないかと心配するのです。白ひげで、知恵の書の短命の義人を思い出しました。賢明こそ人にとって白髪であり、汚れない生活こそ高齡である。かれは神によみされたので愛され、罪びとの中に住んでいたのので所を移された。(4・9~10)

鈴虫のひげは先が黒いから、先まで白くならないと神さまに呼んでいただけなのかなと思ひ乍ら自分のことを思ひめぐらしております。また歌の文句にもどります。秋の夜長をなきとおす。ああ面白い虫の声。虫は虫なりに神さまのご計画を賛美し、感謝してゐるのです。ところが、自分は虫のように素直に日々の生活を賛美と感謝の心で捧げているかということになる。さんきしななければなりません。鈴虫の美声をききながらこんな思ひにふける秋の夜長です。(旅人)

## おらが教会

(47)

岩手・北上教会



「匂いやさしい百合の」と歌われる北上川、そして桜の名所、展勝地、夏は東北六大祭りとして名をあげた、みちのく芸能祭りで賑わう北上市は、盛岡から新幹線で南下すること20分。江戸以来の交通の要所でもあります。

市のほぼ中央、夜ともなれば赤ちようちんに燈がともり、夜の蝶で賑やかな飲食店街のまっただ中に、北上カトリック教会と暁の星幼稚園が肩をよせ合つて信者達のより所となり、聖なる雰囲気を保っております。

聖堂は20年前の一九六四年十一月一日、諸聖人の御名を頂いて献堂されましたが、幼稚園は一九五七年十月七日、ベトレヘム会によつて創立されました。それまで信者は、水沢の教会まで汽車またはバスで通つたものでした。幼稚園が出来てからは、当時水沢教会の主任司祭だつたアロイジオ神父様が巡回して下さつて、北上で御ミサにあずかることが出来るようになりました。その後、水沢の助任司祭として赴任されたトマ神父様がいらして下さるようになり、スイスの方々の御援助と、トマ神父様のなみなみならぬ御尽力によつて

お聖堂が建てられました。

一代目の主任司祭フランツ・ガイッセル神父様も海外から援助をあおいで、司祭館と図書館をお聖堂のうしろに建てられ、一九六六年から十二年間、幼稚園と教会の基を固められました。二代目ルカ・ストップフェル神父様は、一九七八年から一九八二年まで、その温厚なお人柄と学問の深さで信者を魅了し、よく信者の心をつかんで身をもつて信仰を示して下さいました。一九八二年秋、信者達に惜しまれつつ御帰国なさいました。現在のマルコ・ゲンベルリ神父様はベトレヘム会で一番お若く、北上教会にとつては三代目の主任司祭でいらつしやいます。神父様は明朗快活、若い人をひきつけ、活動的に南へ北へ車でお忙しくかけ回つていらつしやいます。特に音楽に堪能で、聖歌の指導や御ミサ中のうたなど、北上教会もとても華やかになりました。

また求道者の勉強や学生に英語を教えたりなさる一方、毎週火曜日には御ミサのあとと聖書研究会を開き、信者の指導にも力をいれておられます。信者数は五十余名ですが、毎日曜日の御ミサには20人位があずかつております。最近若い御夫妻に相ついでおめでたがあり、また若い家族の転入などで長い間静かだつた教会がにわかには活気づいたように思われます。しかし、教会での活動は働き人が少なく、何をすることも役員会と婦人会の数人の奉仕に支えられてゐる現状です。それでも大きな行事には皆で力を出し合い、難関をのりこえた時の喜びと感動は何ものにもかえがたいものがあります。

昨年夏、久慈教会に巡礼をし、海岸の壮大な景色の中で御ミサには一同深く感激し、御ミサ後の食事も久慈の方達の心づくしで、本当に楽しく感謝感激でした。今年も久慈の方達にこちらに来て頂き、展勝地の山の上での御ミサにあずかり、喜びをわかち合いました。北上のような小さな教会はよその教会との交流により、多くの信者と交ることが出来、喜びが大きくなるように思われました。

また私達の教会では、ガイッセル神父様以来の伝統でロザリオの祈りの奉獻を続けております。お祈りの日は自分できめ、祭壇の上におかれたノートに署名することになってゐます。また日本キリスト教団北上教会と合同での行事をもち、市民クリスマス、キリスト教一致の合同祈禱会など協力して行つております。神父様が盛岡から持つていらつしやるアムネステイのはがきによる運動にも協力し世界中に主の平和が訪れるよう祈りつつ署名し郵送しております。

以前は、カテキスタの方に任せきりだつた教会の活動も、五年程前から信者に委ねられました。私達の活動は本当に不十分でさやかなものですが、皆で力を出し合い、協力しあつて共に祈り、助け合つて行きたいと望んでおります。(田村 テウ子)

【編集後記】紅葉前線南下、の知らせを耳にし、冬ごもりの準備に忙がしい人がいる。「一人ひとりが宣教者、救いのみ業の協力者」との司教団のことを、長い冬にあためてみるのもいいかも知れない。(首)